

科目名	アートマネジメント		Subject	Art Management
サブタイトル	アートと社会の関係について、アートマネジメントの現場の実例から学ぶ。			
科目基本情報			ディプロマポリシー「主な学習効果」	
開講年次	開講時期	必修／選択	美容芸術	社会実装
2 年	前期	必修		
授業形態	単位	時間		
講義	2 単位	30 時間		
ゲストスピーカー招聘回	なし			◎
教員名	横原 彩		メールアドレス	saya.makihara@ . . .
教員の略歴	東京藝術大学大学院音楽研究科音楽専攻音楽文化学研究領域芸術環境創造博士後期課程修了〔博士（学術）〕。2012 年～コンサートホールにてクラシックコンサートの企画制作を担当。2019 年～アート NPO にてアートプロジェクトのアートマネジャー兼広報として従事。現在は成蹊大学文学部芸術文化行政コースにて客員准教授としてアートマネジメントや文化政策学の授業を担当している。			
実践的教育	アートマネジャー：アートマネジャーとしての経験を活かし、アートマネジメントの具体的な事例を盛り込んだ授業構成としている。			
オフィスアワー				

科目の概要																	
本科目では、日本におけるアートマネジメントの歴史や、その諸領域、存在意義、適用範囲について概説する。また、芸術文化組織を取り巻く環境とその組織特性に着目し、行政や企業、実演団体、中間支援組織などの実例を紹介しながら、日本のアートマネジメントの現状と課題について考察を深め、アートマネジメントの基礎的知識を学ぶ。アートと社会の関係について考えを深め、多様な価値観や考え方を理解し、受け入れ、美容領域へ応用する能力を育む。																	
授業方法																	
対面		オンライン		ハイブリッド		ディスカッション		プレゼンテーション		作品制作							
○		-		-		あり		あり		-							
授業の目標と関連するディプロマポリシー（DP）																	
ディプロマポリシー		授業の目標															
社会実装		アートマネジメントの実践に対して自らが見出した視座と課題を言語化して他者に共有できる。															
教科書・教材																	
教科書		教員作成資料（パワーポイント）を使用する。レジュメを毎回配布する。															
参考文献		『アーツ・マネジメント概論』小林真理・片山泰輔 監修・編、水曜社、2009 年。															
各自準備教材		なし															
評価方法																	
筆記試験		実技試験		受講態度		小テスト		レポート		プレゼンテーション		作品		課題		その他	
-		-		50%		-		30%		20%		-		-		-	
毎授業後にコメントシートを提出してもらいます。提出先は google クラスルームを予定しています。																	
なお、出席数が不足の場合は評価対象とはしません。																	
課題（試験やレポート）のフィードバックの方法																	
レポートに対して、コメントを返します。																	
履修上の条件・注意																	
※何らかの社会的な状況変化等の諸般のやむを得ない事情により、授業方法、授業計画、評価方法等を変更する場合がある。																	
本科目履修と関連する資格																	
なし																	

授業計画				
	授業内容	到達目標	時間外学習（予習・復習）	時間(分)
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、予習・復習の仕方について理解し、授業の全体像を自分の言葉で説明することができる。	シラバスを読み、あらかじめ講義内容を把握する。	240 分
第 2 回	アートマネジメントとは（１） 日本でアートマネジメントが成立した歴史的背景を概観する。	アートマネジメントが成立した歴史的背景を理解し、自分の言葉で説明することができる。	アートマネジメントとは何か、自分なりにイメージしてみる。講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、実践事例等を探し、知見を深めておく。	240 分
第 3 回	アートマネジメントとは（２） アートマネジメントの対象領域について概観する。	アートマネジメントの対象領域について把握し、自分の言葉で説明することができる。	身の回りの「アートマネジメント」を探してみる。講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、実践事例等を探し、知見を深めておく。	240 分
第 4 回	アートにかかわる多様な組織と制度（１） 非営利組織：行政や文化財団のアートマネジメントについて学ぶ。	行政や文化財団のアートマネジメントについて理解を深め、自身の意見をふまえたうえで説明することができる。	次週テーマに関する情報を収集する。講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、実践事例等を探し、知見を深めておく。	240 分
第 5 回	アートにかかわる多様な組織と制度（２） 非営利組織：アート NPO のアートマネジメントについて学ぶ。	アート NPO のアートマネジメントについて理解を深め、自身の意見をふまえたうえで説明することができる。	次週テーマに関する情報を収集する。講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、実践事例等を探し、知見を深めておく。	240 分
第 6 回	アートにかかわる多様な組織と制度（３） 非営利組織：文化施設のアートマネジメントについて学ぶ。	文化施設のアートマネジメントについて理解を深め、自身の意見をふまえたうえで説明することができる。	次週テーマに関する情報を収集する。講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、実践事例等を探し、知見を深めておく。	240 分
第 7 回	アートにかかわる多様な組織と制度（４） 非営利組織：中間支援組織、助成団体のアートマネジメントについて学ぶ。	中間支援組織、助成団体のアートマネジメントについて理解を深め、自身の意見をふまえたうえで説明することができる。	次週テーマに関する情報を収集する。講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、実践事例等を探し、知見を深めておく。	240 分
第 8 回	アートにかかわる多様な組織と制度（５） 営利組織：企業のアートマネジメント、特にメセナや CSR 活動について学ぶ。	企業のアートマネジメント、特にメセナや CSR 活動について理解を深め、自身の意見をふまえたうえで説明することができる。	次週テーマに関する情報を収集する。講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、実践事例等を探し、知見を深めておく。	240 分
第 9 回	アートマネジメントの現在（１） アートを活用したまちづくりや地域活性化について学ぶ。	アートを活用したまちづくりや地域活性化について理解を深め、自身の意見をふまえたうえで説明することができる。	次週テーマに関する情報を収集する。講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、実践事例等を探し、知見を深めておく。	240 分
第 10 回	アートマネジメントの現在（２） 芸術文化事業における評価の現状や課題について学ぶ。	芸術文化事業における評価の現状や課題について理解を深め、自身の意見をふまえたうえで説明することができる。	次週テーマに関する情報を収集する。講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、実践事例等を探し、知見を深めておく。	240 分
第 11 回	アートマネジメントと美容（１） アートと美容の関係性についてディスカッションする。	アートと美容の関係性について自身の経験をふまえたうえで、意見を具体的に述べることができる。	次週テーマに関する情報を収集する。講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、実践事例等を探し、知見を深めておく。	240 分
第 12 回	アートマネジメントと美容（２） 美容分野を扱ったアートマネジメントについてディスカッションする。	美容分野を扱ったアートマネジメントについて、自身の経験をふまえたうえで、意見を具体的に述べることができる。	次週テーマに関する情報を収集する。講義内容のメモを再検討し、不明な点・関心を持った点について各自、実践事例等を探し、知見を深めておく。	240 分
第 13 回	アートマネジメントと美容（３） 美容分野を扱ったアートマネジメントの実践事例について調べる。	美容分野を扱ったアートマネジメントの実践事例を自身で調査し、自分の言葉で解説することができる。	プレゼンテーションの準備をする。プレゼンテーションを振り返り、見出された諸問題について考察する。	240 分
第 14 回	アートマネジメントと美容（４） 美容分野を扱ったアートマネジメントの実践現場を見学する。	美容分野を扱ったアートマネジメントの実践現場で得た感想を言語化することができる。	見学するアートマネジメントの実践現場の情報を調べる。実践現場の見学で得た感想をまとめる。	240 分
第 15 回	まとめと解説 提出したレポートを全員で共有し、感想を述べあう。	他者の意見に対して、自身の見解を述べることができる。	これまで学んだアートマネジメントに関する知識や、履修生間でディスカッションした内容から、アートと社会の関係について自身の視座を言語化して共有する。	240 分